

さいばい漁業に求められること

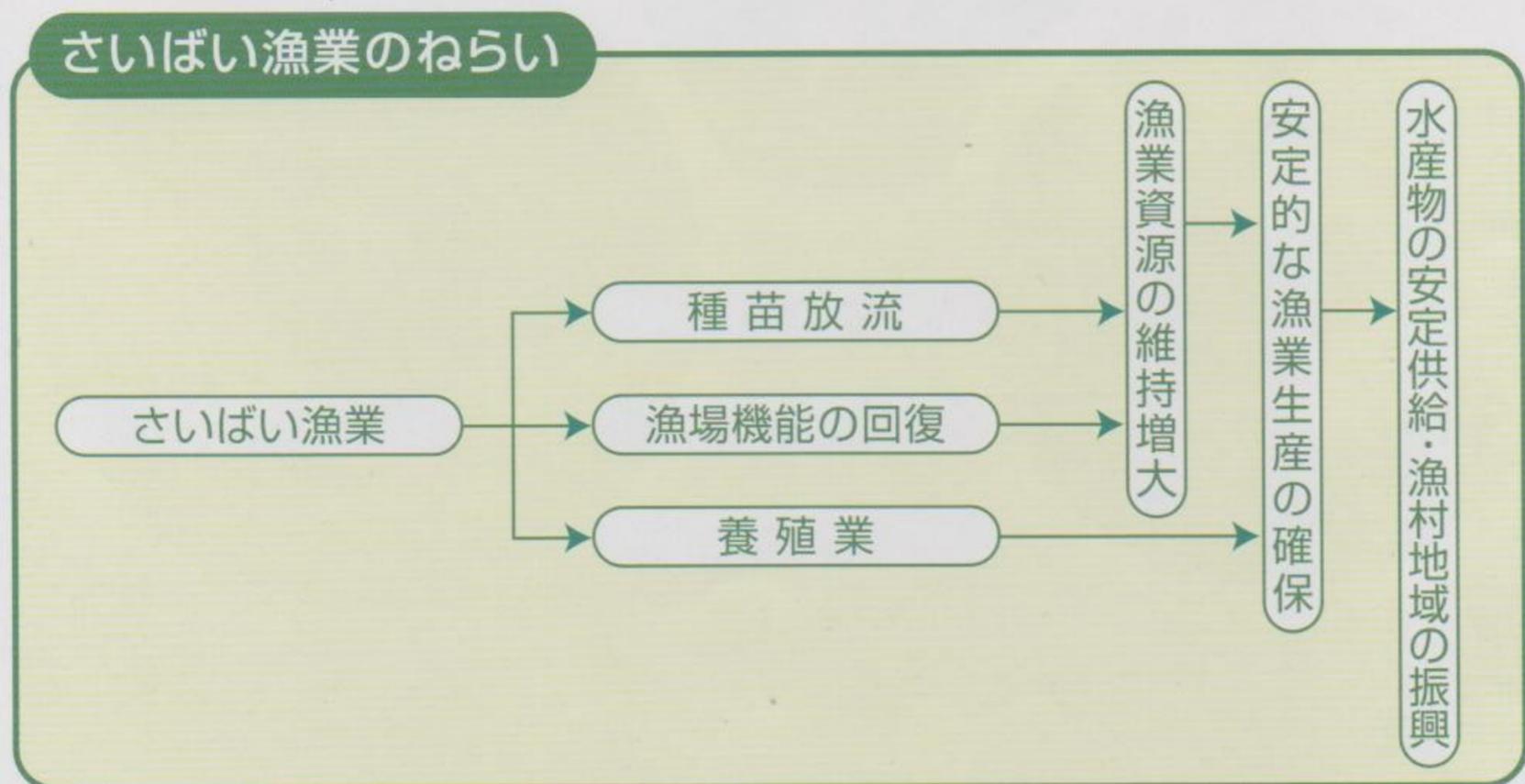
鳥取県は、日本海という豊かな海のおかげで四季折々においしい魚介類に恵まれています。

しかし、さかなのとりすぎや海の環境の変化が進んでいる中であって、「獲るだけの漁業」を続けていたのでは、近い将来、鳥取の漁業や食文化もすたれていくことが心配されます。

そこで、鳥取県では、人工的に育てたアワビ、サザエ等の「種苗放流」、藻場の造成やイワガキ漁場の再生等による「漁場機能回復」、水槽や生けすなどで育てて出荷する「養殖業」により、安定した水産物の確保や、食文化の維持を図る『さいばい漁業』を活用した地域づくりを応援していきたいと考えています。

近年、漁業者からは、「地域に定着する魚を増やして欲しい」、「安定した漁業収入を得るため養殖に取り組みたい」、「海藻やイワガキが減って昔のような豊かな漁場に回復したい」といった声が、また一般県民からも「養殖を手掛けたいので技術を教えてほしい」、「海の環境が悪化しているのもっと原因究明や回復策に目を向けて欲しい」など、さいばい漁業へのニーズや期待が今以上に求められています。

このパンフレットは、県内で行われている『さいばい漁業』の取り組みについて紹介します。



* 表紙写真 左上:イワガキ稚貝の海中ブロックへの貼り付け作業(東浜) 右上:サザエの放流作業をしている漁業者(淀江)
真中:アラメ海中林 左下:御来屋のサザエ祭り 右下:養殖クルマエビ出荷作業(浜村)